

ベネズエラ大統領選挙をどうみるか⑥

▶最高裁選挙法廷、ニコラス・マドゥーロの勝利を確定

8月22日、ベネズエラ最高裁選挙法廷は、ニコラス・マドゥーロ候補の7月28日の大統領選挙の勝利を確証したと発表しました。

▶アメリカ猛然とそれに反対

すると、翌日、アメリカ国務省は、直ちに「ベネズエラの最高司法裁判所は昨日、7月28日の大統領選挙でニコラス・マドゥーロ氏が民主野党候補のエドムンド・ゴンザレス氏に勝利したとの判決を下した。7月28日にゴンザレス候補が最多得票を得たという圧倒的な証拠があるだけに、この裁定はまったく信憑性に欠ける」と批判しました(24.08.23 US Department of State HP)。また、アメリカ主導のもとに、アルゼンチン、コスタリカ、チリ、エクアドル、米国、グアテマラ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国、ウルグアイの親米11カ国は、共同声明を発表し、すべての投票報告を、全面的・独立した方法で鑑定することが、国民の意思を尊重することができるとして、選挙法廷の判決を非難しました。

一方、ブラジル、コロンビア、メキシコ、ホンジュラス、ベリーズ、エルサルバドル、ニカラグア、キューバ、ボリビア、ハイチ、トリニダードトバゴ、ジャマイカ、スリナム、その他カリブ海諸国、合計22カ国は、この共同声明には加わっていません。

ベネズエラ政府は、この共同声明を、2017年に15カ国で結成され、その後8カ国に衰退した、反ベネズエラ諸国のリマ・グループを再編成するとともに、過激派右翼政権を成立させ、失敗したグアイドー政権のような第2の並立政権を作る試みとして、厳しく批判しました。

▶全国選挙管理委員会デルピーノ委員が「複数の不正行為があった」発表

こうした文脈の中で、8月26日、ベネズエラ全国選挙管理委員会(CNE)の5人の委員の一人、フアン・カルロス・デルピーノ委員が、SNSで、「複数の不正行為があった」とコミュニケを発表しました。すると、時事通信、しんぶん赤旗は、次のように報道しました。

大統領選に「不正」 選管幹部が内部告発—ベネズエラ

【サンパウロ時事】ベネズエラの中央選管に相当する全国選挙評議会(CNE)の幹部は26日、先月28日に行われた同国大統領選で、複数の不正行為があったと内部告発した。CNEが発表したマドゥーロ大統領当選の正当性が改めて疑義を突き付けられる格好となった。

「現職当選」 司法も認定 最高裁が選管発表支持—ベネズエラ

告発したのはフアン・カルロス・デルピーノ氏。5人で構成するCNE委員のうちの一人で、野党に近いとされる。同氏はX（旧ツイッター）への投稿で、一連の不正によって「選挙プロセスや発表された結果に対する信頼の喪失」につながったと強調した。

具体的には(1)投票締め切りに合わせて野党の選挙監視員が閉め出された(2)電子投票機から開票結果の送信が中断した—などと訴えた。多くは野党側も指摘している。

続いて翌日、共同通信、東京新聞は、次のように報道しました。

ベネズエラ選管幹部が告発 選挙不正を暴露、政権に逆風

【サンパウロ共同】ベネズエラの選挙管理当局幹部が26日、7月の大統領選で複数の不正行為があったと内部告発し、現職マドゥーロ大統領が勝利したとの結果は「透明性と真実性を著しく欠いている」と批判した。選管内からの暴露は、選挙の正当性を唱える政権にとって逆風となりそうだ。

告発したのは選管当局の委員5人のうちの1人、フアン・カルロス・デルピーノ氏で、X（旧ツイッター）に文書を掲載した。

デルピーノ氏は、投票締め切り後に野党側の監視員が立ち退かされたことは「重大な規則違反」だと指摘。投票結果の送信が中断されたことも問題視し、政権側が原因に挙げたサイバー攻撃によって「正当化された」と訴えた。

▶デルピーノの発表は真実か

しかし、実際はどうだったのでしょうか。デルピーノ委員のコミュニケの内容にどれだけの信憑性があったのでしょうか。また、デルピーノ委員は、どのような政治的経歴を持つ人物なのでしょうか。

デルピーノは、コミュニケの第5項目で、「少なからずのセンターで立会人が退去させられたこと、コマンドのデータセンターにQRコードが送信されなかったこと、ハッキング疑惑に対する効果的な解決策がなかったことから、私は集計室には上がらず、第一報の発表にも出席しないことを決断した」。第6項目で、「私は、主要選管委員として、集計室に上がらなかったことで、発表された結果を裏付ける証拠が欠けてしまった」と述べています。



したがって、デルピーノは7月28日に集計を掌握しておらず、集計の真偽を議論する証拠ももっていないのです。選挙集計が不正だという証拠も示さず、立会人の存在の不具合を指摘して、選挙が不正だと述べているのです。

▶デルピーノの陰にアメリカ

実際、デルピーノは、午後5時に退室し、自宅に帰った後、即日コロンビアに向かいました。そしてボゴタでパルメイラ米国大使と会い、その後パナマ経由、米国に向かいました（24.08.26 La Iguana）。

デルピーノは、8月26日にコミュニケを発表した後、26日には、ニューヨーク・タイムズとインタビューを行っています。しかし、そこでも新しい具体的な不正の内容はありません。

デルピーノは、2023年8月アメリカに居住していましたが、ベネズエラ国会により、5人の選挙管理委員に任命されました。この時、デルピーノは、野党の民主行動党（AC）の党员でした（24.08.26 NYT）。「野党に近い」のではなく、まさに野党の党员なのです。また同時に野党の新時代党のアイメ・ノガルも選挙管理委員に選ばれています。野党の民主行動党は、今回の大統領選には、ルイス・エドゥアルド・マルティネス候補が立候補しました。野党の新時代党は、民主統一プラットフォームの一員としてエドモンド・ゴンサーレスを支持しました。このように、5人の選挙管理委員会のうち2名は野党の党员であり、CNEを政府が支配しているという報道は、一面的です。また、独裁政権であれば、全員を政府派委員とするでしょう。



ノガル委員は、選挙の不正を公式に述べていませんし、ニューヨーク・タイムズのインタビューの要請を断っています（24.08.26 NYT）。ノガル委員は、デルピーノ委員と違って、すべての選挙集計にも立ち会っており、CNEの会議に参加しています。選挙の不正があれば、民主統一プラットフォームは、その情報を喉から手が出るほどほしがっているだけに、ノガル委員も当然発表しているでしょう。

ディオスダード・カページョ PSUV 副党首によれば、デルピーノは、ラファエル・ラミレス元ベネズエラ石油公社（PDVSA）総裁より金を受け取り、買収され（24.08.26 Correo del Orinoco）、マリア・マチャード陣営に大統領選挙についてのCNEの内部情報を伝えていました（24.08.25 Venezuela News）。また、デルピーノは、新時代党の副党首ノデルサ・ソロルサノとも、全国選挙センターの機密内部情報を提供する約束をしています（ditto）。

Xに掲載されたデルピーノのコミュニケを基に報道された記事を扱う場合、その記事を鵜呑みにするのではなく、デルピーノの発表した内容の信憑性と、彼の人物の信用性を分析して初めて、責任ある記事として報道できるのではないのでしょうか。しんぶん赤旗、東京新聞は、それぞれ約20万、約37万の読者に、時事と共同の記事を丸写しで記載して、どのような責任を感じるのでしょうか。

▶CNE, 執拗なサイバー攻撃を受ける

CNEが公言していた、30日以内の全選挙結果の公表については、公表をめざして努力していましたが、8月26日、CNEのWEBサイトは一旦回復しました。しかし、すぐさま外国からのサーバー攻撃に会い、サイトはダウンしてしまいました(24.08.27 Aporrea)。8月31日現在、CNEのサイトは機能していません。ベネズエラ科学技術省の発表では、126の政府機関のプラットフォームが、アメリカ、メキシコ、フランス、スイスからの前代未聞のサイバー攻撃を受けているとされています(24.08.18 El Universal)。マリア・コリーナ・マチャード派による、サイバー攻撃は、実に執拗なものです。

▶国民の支持はどちらにあるか

そうした中で、8月27日、与党と、野党の民主統一プラットフォームは、22日のベネズエラ最高裁選挙法廷は、ニコラス・マドゥーロ候補の7月28日の選挙の勝利を確定したこと巡って、全国でそれぞれ集会を行いました。結果は、前回の17日と同様に、マリア・コリーナが呼びかけた集会は、野党系のWEBサイトで見ても、最大のカラカスで広場に数百名、地方都市では数十名というものでした。一方政府側が呼びかけた集会は、街路一杯に埋め尽くした写真がみられます。もし、野党側がいうように、ゴンサーレス候補が70%近い得票で勝利したのであれば、それだけ政府派を上回る動員ができたはずですが、筆者には、慎重に見ても、チャベス派6対統一プラットフォーム4に見えます。このことは、実数で選挙結果が、間違っていないことを傍証として示しているのではないのでしょうか。



マリア・コリーナ・マチャードは、自分たち独自の投票集計記録でも、現実の支持勢力の数でも、それを裏付けていることを示したかったのですが、二度にわたって失敗したようです。

—続く—

(2024年9月1日 新藤通弘)